

1 調査名称：青谷地区道路網見直し検討業務委託

2 調査主体：城陽市

3 調査圏域：宇治都市圏

4 調査期間：平成23年度～平成24年度

5 調査費：3,047.1千円（当年度までの合計4,727.1千円）  
（街路事業調査）

6 調査概要：

本調査は、平成22年度に地元との協議で策定された「山城青谷駅周辺整備構想」の府道上狛城陽線バイパス構想を実現するための最初の課題である都市計画決定に向け、当該バイパスルート関連地域における既存都市計画道路網の見直しを行うものである。

このため、平成23年度において、見直し対象道路に関する現況をまとめるとともに、見直し案について定性的検証を行ったところである。

当年度は、引き続き、見直し案について、交通量の現況分析及び将来予測等の定量的検証を行った。

また、調査は、両年度とも、地元住民を主体とした検討会を中心に進めた。

## I 調査概要

1 調査名：青谷地区道路網見直し検討業務委託

2 報告書目次

### 序章 業務の概要

1. 業務の目的
2. 業務の範囲

### 第1章 見直し案の定量的検証

1. 現況交通の分析
2. 将来交通の予測
3. 課題の検証

### 第2章 地元検討会の運営

1. 第1回検討会（通算では第3回）
2. 第2回検討会（通算では第4回）
3. 第3回検討会（通算では第7回）
4. 第4回検討会（通算では第8回）
5. 第5回検討会（通算では第10回）

### 第3章 まとめ

1. 道路網整備基本計画図
2. 都市計画道路変更図
3. 青谷地域道路網見直し検討のまとめ

### 第4章 現況交通量の調査

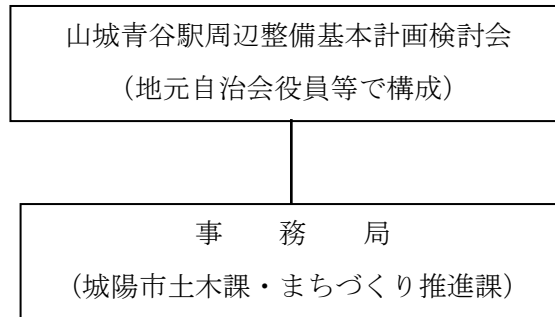
1. 調査の概要
2. 調査の結果

### 資料編

検討会の資料

交通調査の結果

### 3 調査体制



### 4 委員会名簿

#### 山城青谷駅周辺整備基本計画検討会の構成

種別	組織名	人数または職名
地元	十六自治会	3名(会長及び副会長含む)
	奈島自治会	4名(会長及び副会長含む)
	中自治会	4名(会長及び副会長含む)
	市辺自治会	5名(会長及び副会長含む)
	五島自治会	4名(会長及び副会長含む)
	川田自治会	3名(会長及び副会長含む)
	芦原自治会	2名(会長及び副会長)
城陽市	都市管理部土木課	課長、主幹、係長
	まちづくり推進部まちづくり推進課	課長、補佐、係長、担当

## II 調査成果

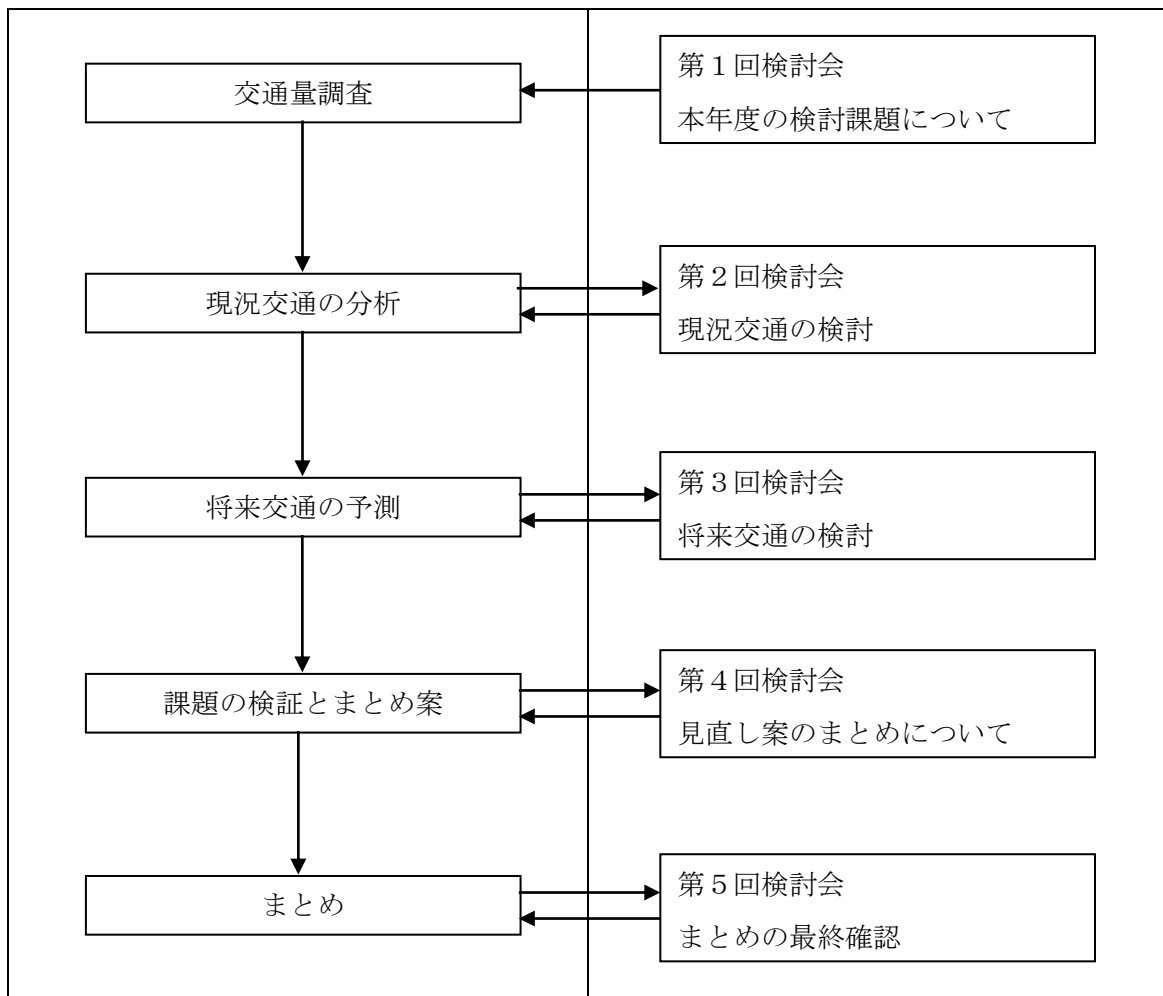
### 1 調査目的

本調査は、府道上狛城陽線バイパス構想の都市計画決定に向け、当該バイパスルート関連地域における既存都市計画道路網の見直しを行うものである。

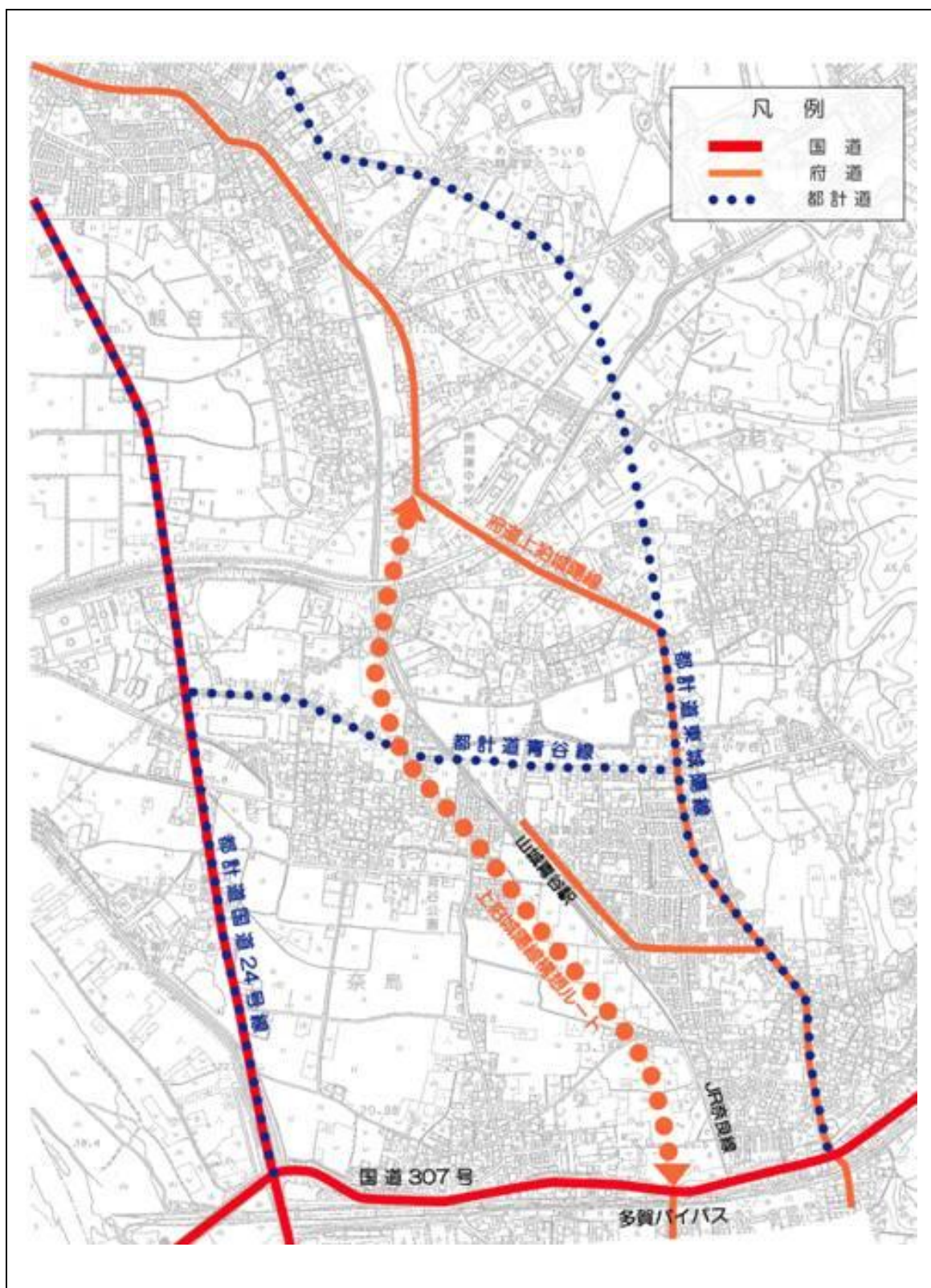
このため、平成23年度において、見直し対象道路に関する現況をまとめるとともに、見直し案について定性的検証を行ったが、本年度は、引き続き、交通量の現況分析及び将来予測等の定量的検証を行うものである。

なお、調査は、住民参加の検討会を主体として進める。

### 2 調査フロー



### 3 調査圏域図





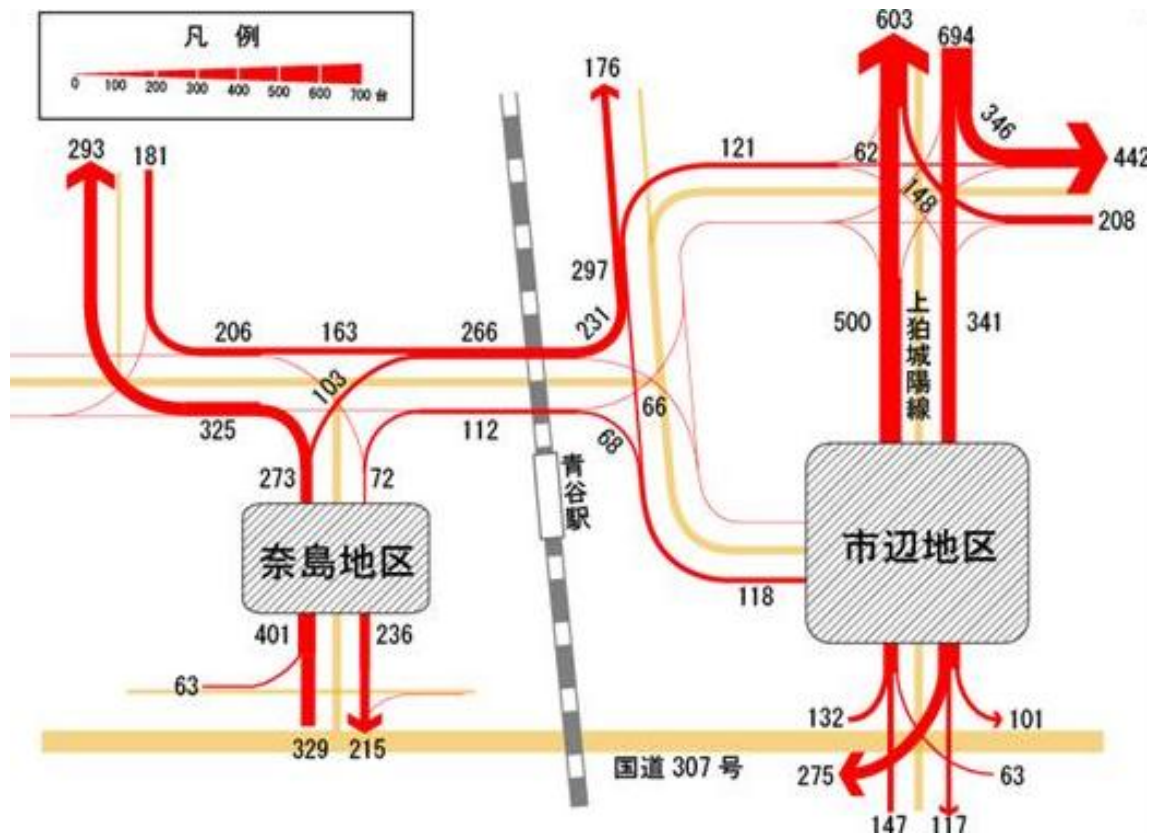
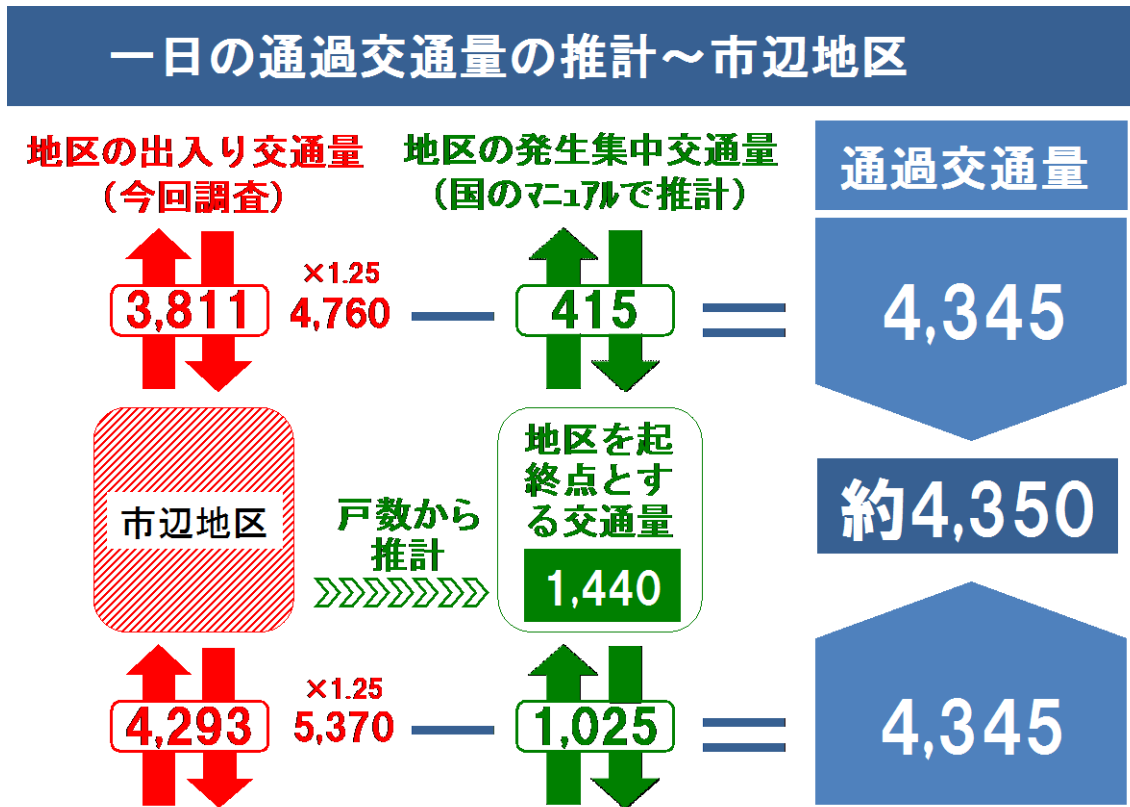


図-2 現況ラッシュ時交通量の帯図（午前7時～午前9時）

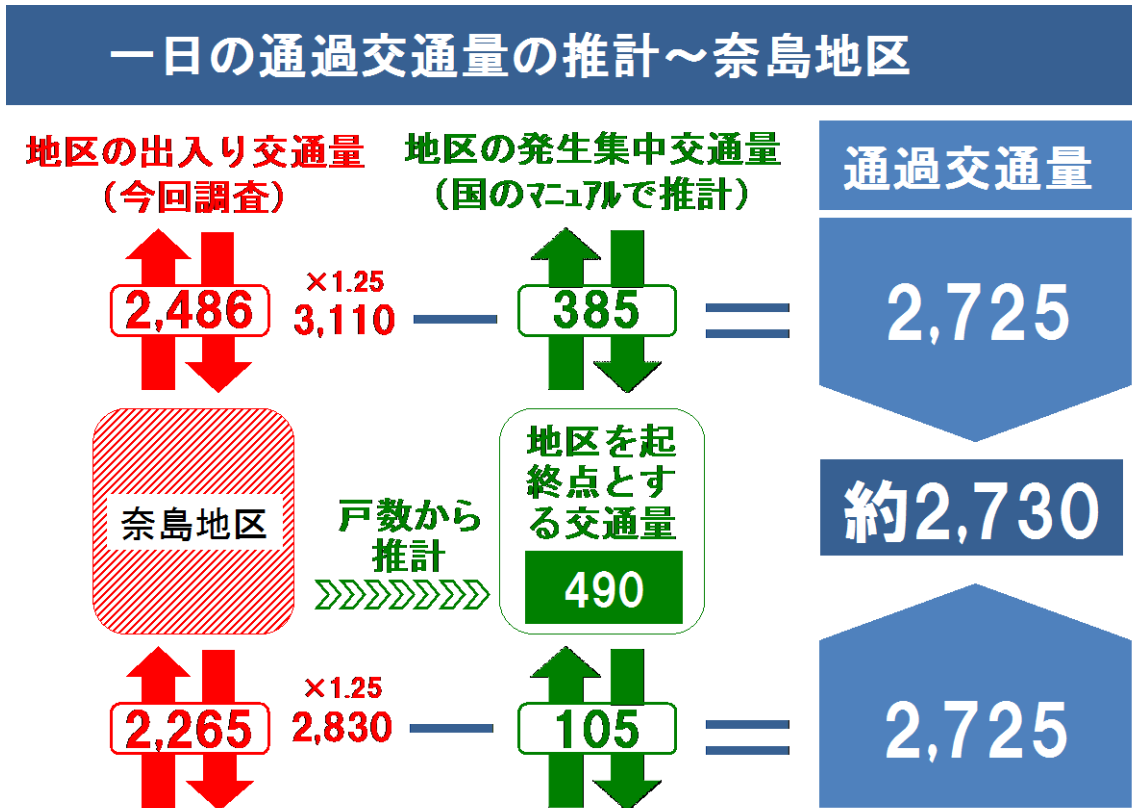
(2) 府道上粕城陽線の通過交通



図－3 上粕城陽線の現況通過交通（市辺地区）



(3) 市道 14 号の通過交通



図－4 市道 14 号の現況通過交通（奈島地区）

### 3. 将来交通量の予測

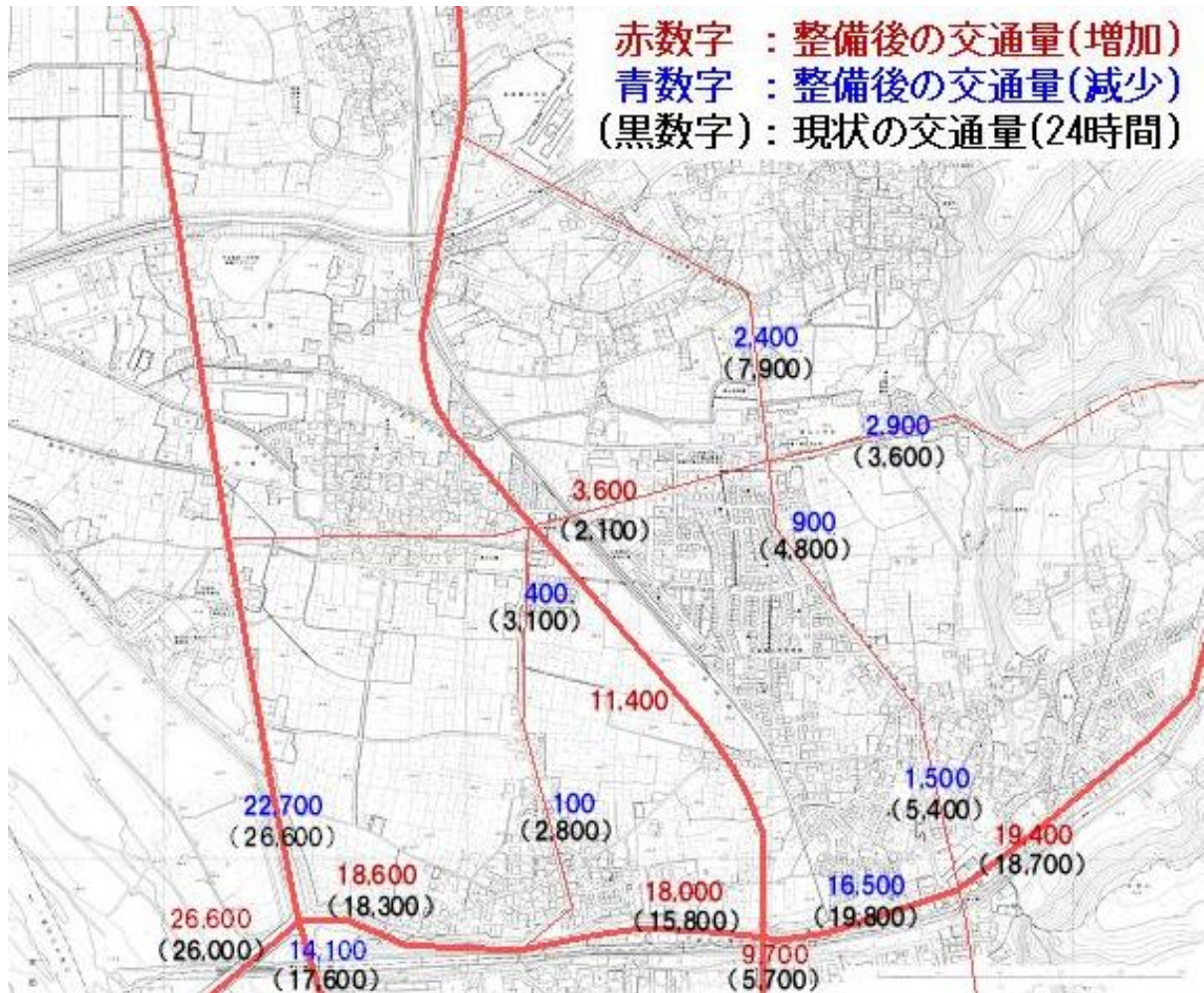


図-5 バイパス整備後の予測交通量 (日交通量)

#### 4. 課題の検証

##### (1) 府道バイパス

- ・バイパス整備により青谷地域の通過交通問題は解消される

##### (2) 東城陽線

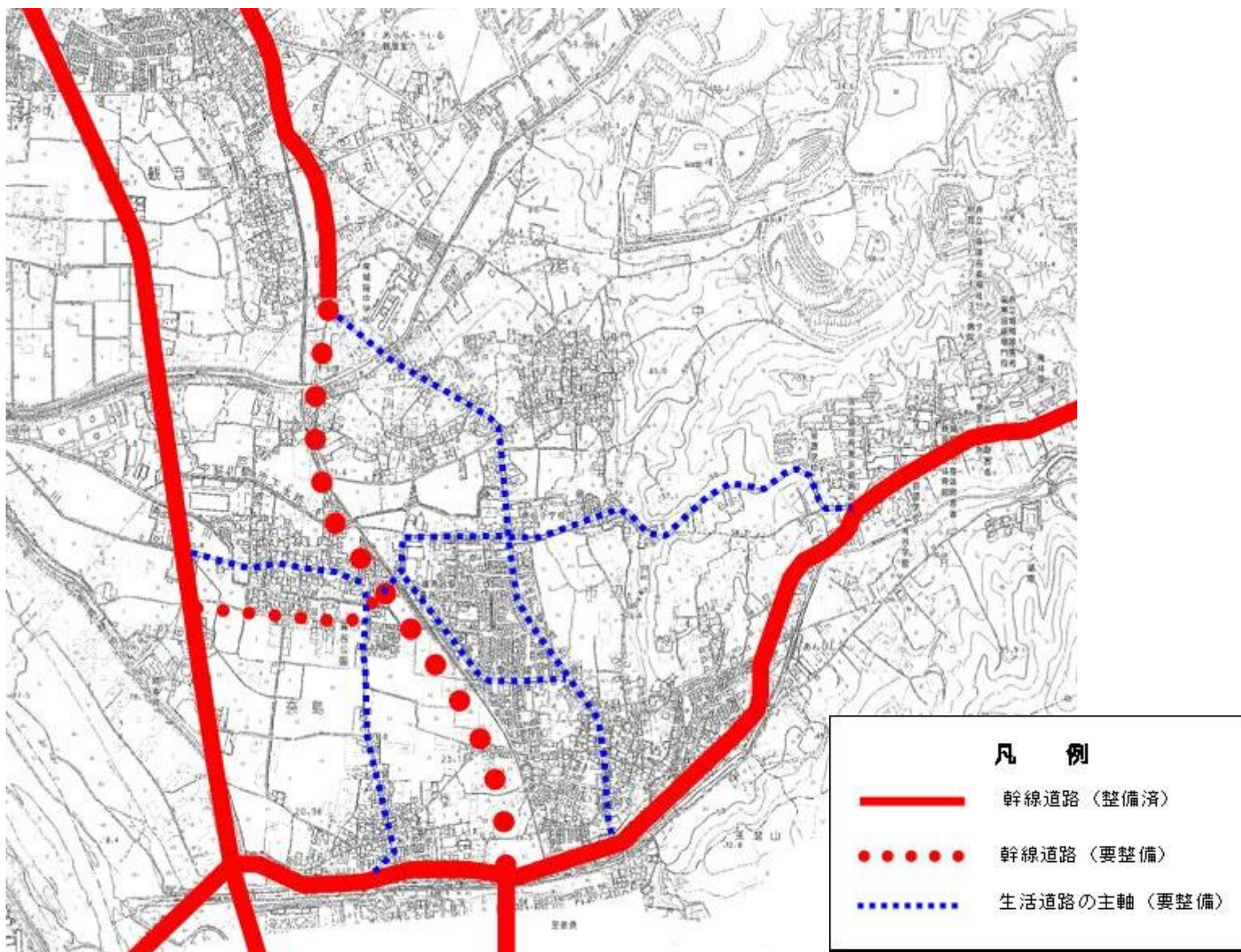
- ・バイパス整備後、青谷小学校前交差点の以南の区間は通過交通が排除されて交通量が1,000台前後となるため、一般の住宅地内区画道路としての位置づけとなる

##### (3) 青谷線

- ・昨年度業務において提示された3つのルート案のうち、駅北踏切に直接アクセスできる◎案を選定する

##### (4) 駅北踏切

- ・駅北踏切の予測交通量は3,100台である。これは、道路構造令の「道路の区分」における市道の上限である4,000台よりは少ない。従って、幅員6mの車道でも容量的には十分であるが、理想としては2車線を想定する。  
ただし、東西とも踏切と交差点間の距離が短いことから、設計に工夫が必要である。



図－6 道路網整備基本計画図

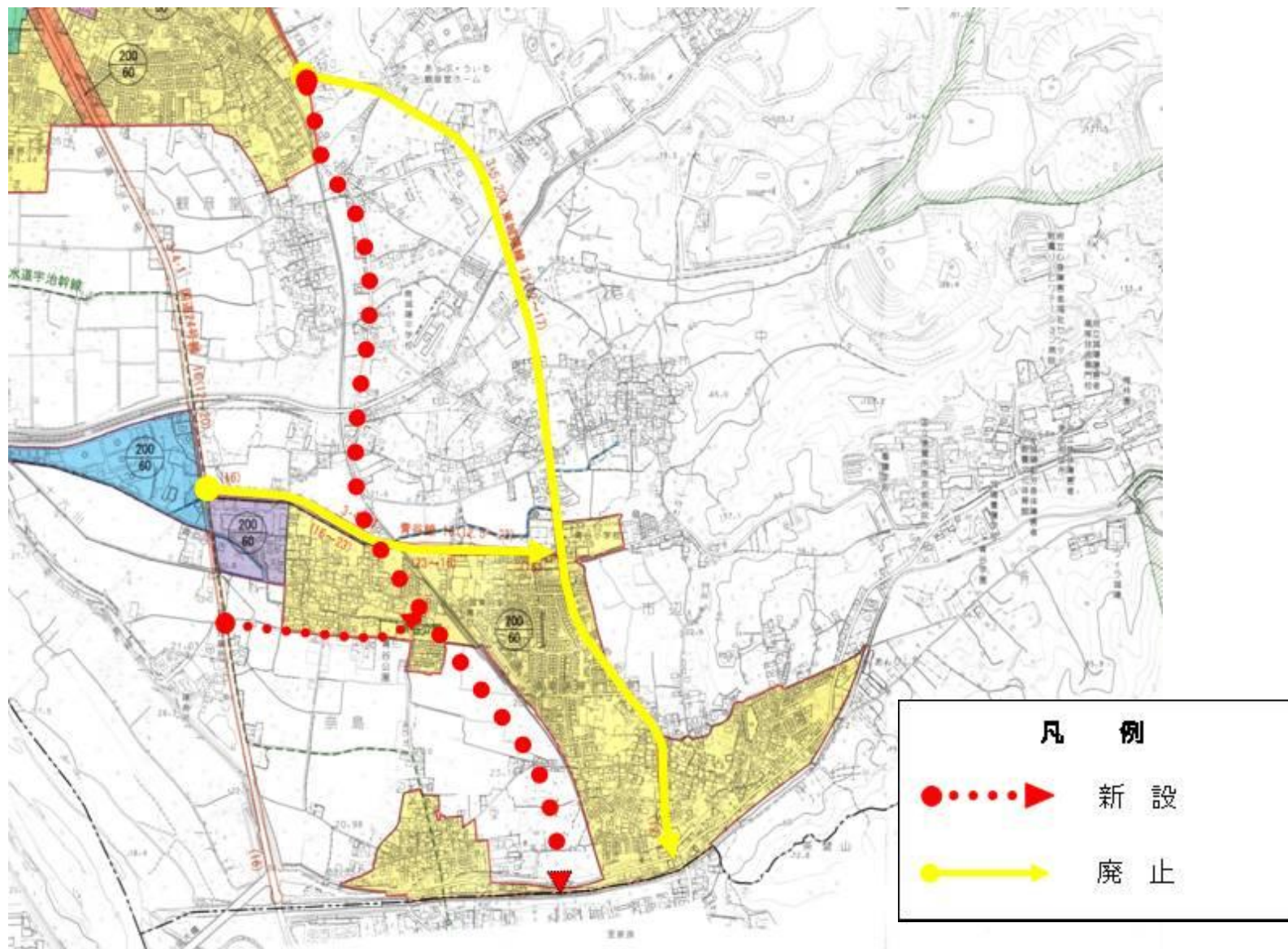


図-7 都市計画道路の見直し案